

# 身近なまちづくりの提案大募集！！

## みんなのまちの夢をまち普請事業で形にしよう～最大500万円を助成～

### ヨコハマ市民まち普請事業とは？

市民の皆様から地域の課題解決や魅力向上のための施設整備に関する提案を募集し、二段階の公開コンテストで選考された提案に最大500万円の整備助成金を交付し、市民の皆様が主体となったまちづくりを支援する横浜市独自の事業です。

これまで、地域交流や高齢者の見守り、子育て支援、自然環境・歴史資源の保存、防災・防犯など、市民の皆様が主体となり分野を問わず幅広い施設の整備が行われてきました。

まち普請事業を通じて、みんなのまちの夢を形にしませんか？

まずは、下記の担当連絡先の地域まちづくり課までお気軽にご相談ください。



多世代交流拠点

西区東ヶ丘：CASACO



自然環境保全

泉区下和泉：わきみずの森



防災

西区西戸部：わくわくハウス

### 応募期間・申込方法



■ 応募期間 4月1日（木）～6月2日（水）必着

#### ■ 申込方法

応募書類を横浜市都市整備局地域まちづくり課へ提出してください。

※様式は、横浜市HP内のヨコハマ市民まち普請事業のページからダウンロードできます。

二次元コードもしくはWEBで「まち普請」と検索してください。

※応募書類の作成を市職員が支援します。



#### ■ 担当連絡先

都市整備局地域まちづくり課 ヨコハマ市民まち普請事業担当

電話 045-671-2679 E-mail tb-seibiteian@city.yokohama.jp

まち普請

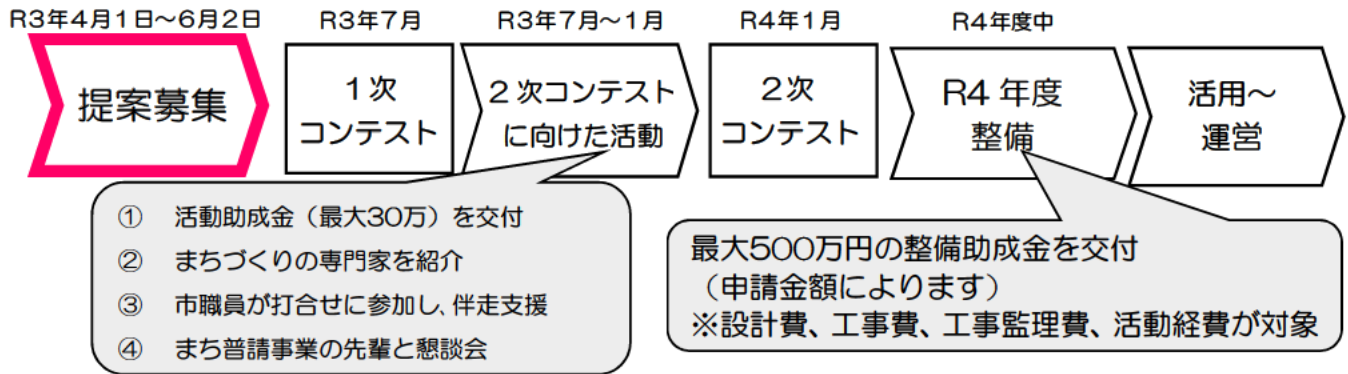
検索

### 主な応募要件

- 整備場所又はその近くにお住まいの方、事業を営んでいる方、土地や建物を所有している方に該当する住民等を3人以上含んでいるグループであること
- 自らが主体となって整備を行う意欲があること
- 事前に地権者等に整備提案の内容及び本事業に応募することを説明していること
- 住民等が持つ新しい発想、手法、地域の資源などを生かした取組で、その成果が地域まちづくりに寄与すると考えられる整備提案であること

裏面あり

# 事業の流れ



2回の公開コンテストは以下の審査基準から評価され当日中に結果が出ます。

- ・1次コンテスト（創意工夫・意欲・公共性）
- ・2次コンテスト（創意工夫・実現性・公共性・費用対効果・地域まちづくりへの発展性）

## 先輩グループが整備した施設に行ってみよう！

令和元年度に整備提案に選定されたグループの整備施設が完成しています。  
ヨコハマ市民まち普請事業の応募を検討される皆さまは、ぜひ一度、先輩グループが整備した施設を訪れて、まち普請事業の体験談を聞いてみてはいかがでしょうか。

### みんなの絵本のおうち【おはなしの風】令和2年7月OPEN！



相鉄線いずみ中央駅の高架下に新築された建物に、絵本をコミュニケーションツールとして活用した居場所を整備。絵本をきっかけとした地域の交流の場を目指します。  
所在地：泉区和泉中央南5-4-11  
TEL：045-295-2104

### コミュニティカフェ icocca【NPO法人icoccaひのみなみ】令和2年10月OPEN！



港南区内で最も高齢化率の高い住宅街にある空き店舗を改修し、多世代交流拠点を整備。いつでも、誰でも立ち寄れて、休憩できる「みんなのリビング」のような場を目指します。  
所在地：港南区日野南6-29-17  
TEL：045-367-9895

### 菊名みんなのひろば【菊名・錦が丘にみんなの“ひろば”をつくる会】令和3年2月完成！



港北区菊名・錦が丘地域には地域住民の交流の場が少ないため、みんなが自由に集まれる交流拠点を整備。提案場所が新たな拠点となり、更に新しい活動が生まれる地域にしていきます。  
所在地：港北区錦が丘 17-7  
TEL：045-294-3691

※活動時間については、コロナウイルス感染症対策等の事情により変更の可能性があります。  
お電話にてご確認ください。

お問合せ先

都市整備局地域まちづくり課担当課長 萩原 慶一 Tel 045-671-2665

まち  
普請

# ヨコハマ市民まち普請事業

応募期間：  
令和3年

4月1日(木)

～6月2日(水)

身近なまちづくりの  
(施設等の整備)  
提案大募集!!

50万円～500万円までの整備助成金!!

## 応募の要件

整備提案  
できる方

次の要件をすべて満たすグループです。

- 次のいずれかに該当する横浜市内の住民等を3人以上含んでいること。
  - 1 整備場所又はその近く<sup>※1</sup>にお住まいの方
  - 2 整備場所又はその近く<sup>※1</sup>で事業を営んでいる方
  - 3 整備場所又はその近く<sup>※1</sup>に土地や建物を所有している方
- 自らが主体となって整備を行う意欲があること。
- 事前に地権者等<sup>※2</sup>に整備提案の内容及び本事業に応募することを説明していること。

※1 「その近く」とは、原則として、整備予定場所が所在する町丁目とその町丁目に隣接した町丁目までとしています。

※2 「地権者等」とは、土地・建物を所有している、借りている、又は実質的に使用権利を持つ者(会社や行政機関を含む)です。

対象となる  
整備提案

次の要件をすべて満たす整備です。

- 住民等が主体となって実施できる範囲であること。
- 公共性があること。
- 住民等が持つ新しい発想、手法、地域の資源などを生かした取組で、その成果が地域まちづくりに寄与すると考えられること。

※対象外となる整備提案

- ・ 営利、宗教、政治または選挙活動を目的とした整備
- ・ 特定の個人のみが利益を受ける整備
- ・ 公序良俗に反する整備
- ・ 国、地方公共団体、もしくはそれらの外郭団体から資金的支援を受けているまたは受けようとしている整備

※整備した施設で行うことのできない行為

- ・ 宗教、政治または選挙活動を目的とした行為

## 支援内容

- 提案の実現性を高めるため、提案内容の整理や関係機関との協議・調整などを地域まちづくり課の職員が支援します。
- 1次コンテストを通過すると、活動費用(最大30万円)を交付します。また、提案内容について専門的な見地からアドバイスをしてくれるまちづくりの専門家を紹介します。
- 2次コンテストを通過すると、整備費用(50万円～500万円)を交付します。

## お問い合わせ先

横浜市都市整備局地域まちづくり課

〒231-0005 横浜市中区本町6丁目50番地の10  
TEL.045-671-2679 FAX.045-663-8641  
MAIL: tb-seibiteian@city.yokohama.jp

Webで検索

Facebookで検索



2021年3月



多世代交流

高齢者の見守り

防災

歴史資産の活用



私たちのまちを 私たちでつくる きっとまちが好きになる

子育て支援

防犯

自然環境の保全



掲載事例

- ① 歴史と環境をテーマに安心して楽しめる里海公園づくり(金沢区)
- ② 鶴見の多文化・多世代の共創拠点づくり まちのリビング(鶴見区)
- ③ 世代を超えた集いの場にするための拠点づくり(南区)

あなたのまちのみんなの夢を  
まち普請事業を使って形にできます!  
まずはお気軽にご相談ください。

横浜市都市整備局

# ヨコハマ市民まち普請事業とは？

市民の皆さんが主体となっていく、地域の課題解決や魅力向上のための施設整備を伴うまちづくりに対して、支援、助成を行う事業です。

施設整備のアイデア検討やコンテストへのチャレンジ、地域の方々と合意形成、整備への労力提供などの機会を通じて、地域コミュニティが活性化し、地域まちづくりの輪が広がることを目的としています。

夢を叶えた施設を紹介  
皆さんも夢をカタチにしませんか？

## 交流の場



多世代・多国籍の方々が集う場所



公園の中の見守り合いの拠点



「人材マップ」を活用した交流拠点

## 自然体験の場



小学校の中の総合学習の場



森と泉の憩いの場

## 防災施設

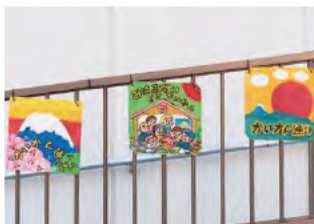


地下貯水槽と手押しポンプ

## 案内板等



まちの魅力を発信するエリアマップ



道路の愛称入りサイン

まち普請事業では、**分野を問わず、**  
様々な夢をカタチに  
することができます。

まち普請  
ホームページは  
コチラ



※ヨコハマ市民まち普請事業のホームページですべての整備事例を紹介しています。

相談/事前登録

※事前登録は応募の条件ではありません。詳細はお問い合わせください。

応募

4月1日～6月2日

## ここから夢のスタート

「応募申込書」と、地域で取り組んでみたい施設整備のアイデアをまとめた「整備提案書」を提出してください。

1次  
コンテスト

7月頃

## アイデアと熱意が勝負

審査員と一般参加者に向けて提案内容を説明していただきます。審査員との質疑応答を経て、公開投票により2次コンテストへ進む提案が選考されます。

**審査基準** ①創意工夫 ②意欲 ③公共性



## 活動助成金

1次コンテストを通過すると、最大30万円の活動助成金を受けることができます。助成対象は、まちづくりの専門家への謝金や活動の広報印刷費などです。

活動懇談会

9月頃

## 意見交換とアドバイス

計画づくりの段階で、審査員、まち普請事業の先輩と意見交換できる場です。2次コンテストに向けて、具体的なアドバイスを受けることができます。



2次  
コンテスト

1月頃

## 熱意に加えて、より具体性を

検討を重ね磨きあげた提案を発表していただきます。審査員との質疑応答を経て、公開投票により成対象となる提案が選考されます。

**審査基準** ①創意工夫 ②実現性 ③公共性  
④費用対効果 ⑤地域まちづくりへの発展性



整備(次年度)

## 整備助成金

2次コンテストを通過すると、最大500万円の整備助成金を受けることができます。助成対象は、設計費、工事費、工事監理費などです。



活用・運営

## 活用・運営

つくて終わりではありません。維持管理、活用・運営を通して、地域まちづくりの輪を広げていきましょう。



TVK（神奈川テレビ）『ハマナビ』5月22日（土）夕方6時～  
特集コーナーで「ジモト愛をカタチに！ヨコハマ市民まち普請事業」が放映されます。

ヨコハマ市民まち普請事業を活用した「市民によるまちづくり」を紹介します。

- ①「百段階段」を中心とした美しが丘地区遊歩道の整備  
（美しが丘アセス委員会遊歩道ワーキンググループ／青葉区）
- ②住民同士の輝き「人材マップ」を中心にした拠点づくり  
（六浦東・まち交流ステーション委員会／金沢区）
- ③東山田工業団地に案内板、掲示板、会社マークを設置  
（つづきっず、はい！→現 一般社団法人横浜もの・まち・ひとづくり／都筑区）

<https://www.tvk-yokohama.com/hamanavi/>

The screenshot shows the TVK Hamanavi website interface. At the top, there is a banner with the show's logo 'ハマナビ' and the text 'ナビゲート！'. Below the logo, the names of the hosts are listed: 芦崎愛 (Aoi Asahi), 根岸佑輔 (Yusuke Ninobe), and 佐藤美樹 (Miki Sato). The broadcast schedule is '毎週土曜日 夕方6:00~6:30'. A featured video player shows a preview for the 5/22 broadcast, titled '次回(5/22放送):ジモト愛をカタチに！ヨコハマ市民まち普請事業'. The video player includes a play button and a caption 'もりのお茶の間より'. To the right of the video player, there are three sections: 'お知らせ' (Notice) with a link to '1/1(金)激送 横浜市新春特別番組【市長と語る2021年の横浜】'; 'メッセージ募集中!' (Message Collection) with a link to 'メッセージフォームへ'; and '放送内容' (Broadcast Content) with a link to '次回(5/22放送):ジモト愛をカタチに！ヨコハマ市民まち普請事業'.

# 「百段階段」を中心とした美しが丘地区遊歩道の整備（青葉区）

## カラリングを通して、そこに住む人がまちを育てていく。まちの新スポットは地元愛の象徴

1960年代に田園都市として開発された「美しが丘」。遊歩道という概念が珍しかった頃から、歩車分

離のまちづくりがなされてきました。春夏秋冬、まちはいろいろな表情を見せ、今も魅力的な住宅地であ

り続けています。日本で初めて住民発意の建築協定※1をつくり、地区計画※2への移行に当たって遊歩道を歩行者専用道路に位置付けるなど、「まちは、そこに住んでいる人がつくりあげていくもの」という住民の想いと努力により、素敵なまち並みは開発後50年以上経った今も健在です。

2000年頃からは、遊歩道をカラリングしたり、住宅地にアート作品を展示したりするアートイベントを行ってきました。その時から関わっていた代表の藤井さんは、子どもたちが地域の階段を「百段階段」と呼んでいることを知ります。単に名前がつけられているだけでなく、そのネーミングのセンス、そして、子どもたちが地域に愛着を持っていることに改めて気づき、感動したとおっしゃいます。

その百段階段を地域の中心としてまちのランドマークを増やしていけば、もっとまちに愛着を感じても



カラリングは2日間のワークショップとして企画され、合わせて約70名が参加した。

らえると思った藤井さんは、デザイン性に富んだサインを街中に設置できないか、区役所に働きかけましたが、その反応は「趣旨は理解できているが、安心安全を保障する行政として、サイン整備はなかなか難しい」というものでした。しかし、そこでヨコハマ市民まち普請事業を教えるというモットーから応募を決めます。

応募にあたって、地域でアンケート調査を行ったところ、様々な意見



少し離れた場所からでも、カラフルな色彩で目を引く百段階段(左)  
地域に点在する案内プレートには、百段階段の何段目の高さに当たるかが記載されている(右上)  
情報看板前にはベンチを設置し、夜間はライトアップされる(右下)

が寄せられました。また、地域の私たちとまち歩きツアーを開催したところ、まちに暗くて歩きたくないような場所や、傷んでいる遊歩道があることなど、多くの発見がありました。提案をまとめる際には、地域の人たちだけでなく、青葉区で活動する建築やデザインの専門家も巻き込み、みんなで知恵を出し合いました。その熱意が実を結び、見事コンテストを通過することができました。

百段階段のカラーリングとあわせて、百段階段をまちの「ものごと」にした案内プレートも整備し、まちのとっておきの場所を「たまプラ遺産」と名付けて「ここは階段の何段目にあたります」と書かれたプレートを設置することで、まちの標高を見える化したのです。また、暗い場所にはライトをつけて安心して通ることができるようになりました。

百段階段のカラーリングのデザインは公募で決定し、子どもたちでも塗りやすいようプロの監修のもと、地域の手で整備を行いました。「ここは自分が塗った」と自慢するオジサンもいれば、子どもたちも

「自分たちが作り上げた」と思っているそうです。

小学校の卒業式に階段を花で飾る「花の百段階段」も大好評で「毎年やってほしい」という要望があり、百段階段の新しいイベントが生まれました。最近では、百段階段が子どもたちやママたちの待ち合わせ場所にもなりつつあるそうです。

草も生えっぱなしで薄暗かったバス停には、周辺のマップをわかりやすく掲示板にして整備し、ライトもつけました。そこにベンチを置いたところ、子どもが集まって宿題をしたり、夜にはワインを飲む人も現れ、まちの新たな人気スポットになっています。

ヨコハマ市民まち普請事業に応募し、まちのことを改めて先輩から

レクチャーしてもらって、若い人たちが感動したり、若者のデザインセンスに年配の人が驚いたりしながら、ゆるくつながってお手伝いし合う、という関係が生まれました。自治会のアクセス委員会に若い人が入ってきたり、子どもつながりで親たちが参加するようになったり、世代間の交流は着実に進んでいます。

ヨコハマ市民まち普請事業で整備した後も美しが丘をさらに魅力的なまちにしようとの機運が高まり、他の助成金を得て、百段階段へつながる歩道橋をカラーリングすることになりました。「まちに、名前の付く場所が増えてほしい。そうすると、もっと地域を身近に感じる人が増えると思う」と藤井さんは言います。最近では美しが丘で生まれ育っ

た人たちが、「ここで子育てをした」と戻ってくる人も出てきているそうです。

住んでいる人がまちをつくる、という先輩たちの思いは着実に受け継がれ、美しが丘はさらに魅力的なまちに進化中です。

※1：土地の所有者等の全員の合意によって建築基準法等の「最低の基準」にさらに一定の制限を加え、互いに守りあうことを「約束し」、その「約束」を市長が認可する制度。  
 ※2：都市計画法に基づいて定める特定の地区・街区レベルの都市計画のことで、まちづくりの方針や目標、道路・広場などの公共的施設・地区施設、建築物等の用途、規模・形態などの制限をきめ細かく定めるもの。



小学校の卒業式に合わせた「花の百段階段」。花のポットには「卒業おめでとう!」の旗がさされている。



# 住民同士の輝き「人材マップ」を中心にした拠点づくり(金沢区)

## 「人材マップ」が育んだ地域の力が生んだ、さらなる力の源となる拠点

横浜市の南端である金沢区の南側、横須賀市に接した六浦東地区では、20年も前から「人材マップ」を活用した地域ぐるみのまちづくりが行われていました。「人材マップ」はその中心人物でもあり今回の整備の発起人でもある滝澤さんが、当時、主任児童委員として活動する中で、子どもと大人の交流が必要と考え、そのきっかけとして、地域の大人が持つ技能を發揮してもらったのが始まりです。この「人材マップ」を核にして、様々な取組が生まれてきました。滝澤さんは活動拠点が重要だと考えるようになり、その思いを町内会や地区社会福祉協議会の会長に伝えました。地区推進連絡会で提案し、賛同を得たことで、地域福祉保健計画に盛り込まれることになり、実行委員会を立ち上げ、拠点づくりに取り組むことにな

りました。そして実行委員会のメンバーの区役所の職員から「ヨコハマ市民まち普請事業」を紹介されました。計画の参考にするためこれまでのまち普請事業で整備された拠点を視察して回る中で、拠点のグループの方から「どのような拠点にしたいか、アンケートをした方がいい」というアドバイスを得ます。そこで地域の3,000世帯にアンケートをとったところ、「喫茶・サロン」に加えて、「ランチが食べられるように」、「情報が欲しい」、「大人の文化活動をしたい」などが上がってきたので提案内容にこれらの声を盛り込みました。一次コンテストでは、地域の多くの方が応援に駆けつけ、また、近隣の大学の先生や区役所の職員が直前までプレゼンの練習に協力してくれた成果もあって、見事トップ通過を果たします。

しかし、二次コンテストに向けて大きな課題が発生しました。整備の対象としていた建物が現在の法律の基準を満たしていないことがわかったのです。それからは空き家や空き店舗を探し回る日々。2ヶ月半後、「もうダメか」と思い始めた頃に候補となる空き家がようやく見つかるのですが、今度は耐震強度が足りないことがわかります。まち普請事業の助成金は耐震補強に充てることができず、このため耐震補強のための寄付を集めることにしました。二次コンテストでは整備後の運営の説明に力を入れ、無事コンテストを通過します。「ここで『人材マップ』で積み重ねてきた地域への信頼がものを言った」と、会長の岩崎さんはおっしゃいます。



住民の手で塗られた緑色の壁面が目印の「もりのお茶の間」。

整備においては地元建設業者が総動員され

ました。延べ600人以上の住民が参加してプロの管理・指導のもと解体や内装工事、ペンキ塗りなどを自分達で行いました。愛称を地域で募集したところ231種類が集まり、その中から「もりのお茶の間」が採用されました。オープン後は特にランチが評判で、開店後早々に予約で埋まってしまふほど。その他にも支え合い事業、スクール事業などを展開し、子どもから高齢者までが集う拠点となっています。最新の「人材マップ」第9版には、ここで活躍する子どもたちも掲載されるそうです。「もりのお茶の間」ができたことで、日々人が集うようになり、そこから見えてきたニーズを踏まえて、新たに認知症や子どもの貧困に対する取組を始めるなど、どんどん活動の幅が広がっています。「人材マップ」に「もりのお茶の間」が加わったことで、さらに地域の力が増幅されていくようです。今後の活動がますます楽しみです。



解体は住民の手で複数日に渡って行われた。



(上) 寺子屋の様子。講師は、地域の元教員や、学生が務める。(下)「お茶の間サロン」のミニコンサート。高齢の方々に人気だ。





整備事例  
3

# 東山田工業団地に案内板、掲示板、会社マークを設置(都筑区)

## 企業が企業市民として住民と一体となった、工業団地の新たなまちづくりの形

都筑区東山田工業団地で産業用・工業用ヒーターの製作を行っている「株式会社スリーハイ」は、オープンファクトリーをはじめ、地元小学校と協力してベルマーク運動をしたり、積極的に地域貢献活動に取り組んでいました。「つつぎっず、はい!」は、元々そのための組織として立ち上がったものです。企業の一部門が整備主体であった点が、これまでのまち普請事業の整備事例と大きく異なる特徴です。

代表取締役である男澤さんは、平成25年頃から準工業地域である工業団地内に住宅が増え始めたことで、「ここで操業し続けるには、もっと住民と知り合い



この造成が大変だったけど、その分つながりが深まったとのこと。

のか、行政がやることなのかわからない」と思いながらも、気軽に事前登録をしたことが始まりだったそうです。

の中で、ある高校生が「準工業地域」は魅力だと思っていました」と発言したことに、男澤さんはハツとしたと言います。一次コンテストでは「準工の課題を解決する」と言っていたのが、この発言をきっかけに「住宅と工場が混じり合うことを魅力として発信する」と、視点がガラッと変わりました。この頃にはもう「つつぎっず、はい!」は「企業の組織ではなく、地域の組織へと変わっていました。その結果、見事二次コンテストを通過します。

コンテストを通過してからも「ゼロまちカフェ」は続けられ、その中で具体的な整備の方法が詰められていきました。参加者の小学校の先生の協力で、6年生が総合学習の時間を使って団地内の企業に訪問インタビューをし、企業のキャッチコピーを作り、それを整備するマップに載せることになりました。マップを設置するための地面の造成や、看板のペンキ塗り等は地域の皆さんと一緒に、そこでさらに地域のつながりが深まったとのこと。

(左) エリアマップ。マップの周りには子ども達が考えたキャッチフレーズの入った企業プレート。(右) 掲示板とポイントアート。

り、小学校3年生の「まち探検」の受け入れを始めます。この「まち探検」で活用していた工業団地内に設置されていた大きな地図が撤去されてしまい、「地図を復活させたい」と男澤さんが情報を集めていたところ、「ヨコハマ市民まち普請事業」を見つけます。「スリーハイがやることな

の中心的な役割を担うようになります。地域住民であり、小学校の地域コーディネーターも担当していた蟹江さんが、社内では男澤さんと社員の皆さん、そして会社の外では学校や町内会、さらに地域の活動者と「つつぎっず、はい!」の間をとりについで、協力は徐々に増えていきました。男澤さん自身も、どんな「企業市民、東山田住民になっていった」そうです。

また、「ゼロからまちづくりをする」という意味を込めた「ゼロまちカフェ」を定期的に開催して、地域との意見交換を進めていました。その



まち探検では、ポイントアートがチェックポイントになり、掲示板にもクイズを貼るなど、工夫が凝らされている。



東山田工業団地に案内板、掲示板、会社マークを設置(都筑区)  
整備主体：つつぎっず、はい!  
整備場所：都筑区東山田4丁目  
整備内容：エリアマップ、情報掲示板、ポイントアート  
協力企業：株式会社大倉、千代田建設株式会社  
竣工時期：平成29年1月